

令和6年度珍來軟式野球大会 開催要項

- 主催 草加市野球連盟
- 協賛 株式会社 珍來総本店
- 日時 令和6年9月1日から10月27日（日曜日）
第1試合 8時30分
第2試合 10時30分
第3試合 12時30分
- 会場 工業団地公園野球場・総合グラウンドB面
- 参加資格 令和6年度 草加市野球連盟登録チーム
原則として、草加市在住在勤の社会人で編成された次のチームとし、必ず、傷害保険に加入すること。
- チーム編成 監督1名・コーチ1名・主将1名で編成された選手25人以内。チーム責任者1名、スコアラー1名、マネージャー1名とする。
- 試合方法 Aクラスはリーグ戦、B・Cクラスはトーナメント戦とする。試合時間及びイニングは、各クラス1時間30分または7イニング制とする。
※参加チーム数により対戦方式を変更する場合があります
- 競技規則 当該年度「公認野球規則」により試合を行う。ただし、今大会特別ルールも併用します。
 - ・リーグ戦は勝ち点制でブロック順位を決定。
勝=3点・敗=0点・分=1点とし、勝ち点が同数の場合は
①得失点差②得点数③失点数④直接対決の戦績で順位を決定する。
 - ・チームが試合を棄権した場合はそのチームは不戦敗とし、相手チームは不戦勝となり、スコアは7-0とする。
 - ・リーグ戦において得点差によるコールドゲームは適用しない。なお、トーナメント戦においては得点差によるコールドゲームを適用する。
- 参加賞・表彰 参加チームに珍來食事券を贈呈。
優勝、準優勝、第3位に賞状・賞品を授与
- 参加費 Aクラス 1チーム 21,000円
B・Cクラス 1チーム 17,000円
※大会に参加するには草加市野球連盟年間運営費7,000円が必要
- 申込手順
 - 【メール申込・振込支払いの場合】
 - ①ホームページからダウンロードした「申込書」に必要事項を入力し、8/18(日)までに作成済みの申込書データを草加市野球連盟事務局までメール添付して送信する。
 - ②8/18(日)までに大会参加費を指定口座に振り込む。
<金融機関>埼玉縣信用金庫 草加支店 普通1701553
<口座名義>草加市野球連盟 山口 守
※必ず振込人名とチーム名を入れてください
 - 【事務局申込・現金支払いの場合】
「申込書」に必要事項を記入し、大会参加費を添えて8/18(日)までに事務局で申込手続きを行う。
草加市野球連盟事務局 草加市高砂1-7-13 ヤマトヤスポーツ
10:00-19:00 (8/7、8/13、8/14、8/15は店休日)

★期限を過ぎての「申込」や「参加費未納」の場合、大会参加はできません

★大会参加申込みの段階で「チーム名」「代表者名」「損害保険加入状況」を確認し、未加入チームの参加は認めません。

- 問い合わせ 草加市野球連盟事務局
TEL 048-928-1135
MAIL sokashiyakyurenmei@gmail.com



会長杯軟式野球大会参加チーム 確認事項

◎競技運営に関する注意事項

1. 代表者会議で説明または決められた事項は、チーム全員に必ず徹底させること。
2. 大会に出場するチームは、事前に選手登録票（年間）3部の提出が必用となり、その登録選手以外の出場は認めない。
3. 軟式野球チームとして好ましくないチーム名を用いないこと。
4. ユニフォーム、帽子、ストッキング、アンダーシャツ等は、同一チームの各プレイヤー（監督、コーチを含む）は、同色、同形、同意匠のものを着用しなければならない。
5. 選手登録票に記載されている選手は全員必ず背番号をつけること（0～99までの算用数字であること）。監督は30番、主将は10番と統一する。背番号の規格は、最小限15.2cm以上、最大限長さ21cm、幅16cm、太さ4cm以内とする。背中には、選手名をつけてもよい。ただし、背番号の上にローマ字で姓のみとする。
6. ベンチは組合せ番号の若い方を一塁側とする。
7. 大会運営の関係でシートノックはなしとする。なお、練習は外野のファウルグラウンドで行うこと。練習中といえどもユニフォームを着用しない者はグラウンドに出ることはできない。
8. 試合中ベンチに入れる人員は、登録されユニフォームを着用した監督、コーチ、選手25名以内とチーム責任者1名、スコアラー1名、マネージャー1名の3名以内とする。なお、この3名はスポーツ行事にふさわしい服装でベンチに入ること。
9. 球場内のフリーバッティングは認めない。また、バックネットに向かったのトスバッティングも認めない。
10. メンバー交換の時期：第一試合は開始時刻の30分前、第二試合以降は前の試合の4回終了時にそれぞれ本部へメンバー表3部（フリガナをつける）を提出して攻守を決定する。
11. 試合開始予定時刻前でも、前の試合が終了した後20分で、次の試合を開始する場合もある。（協議によって早める）
12. 試合開始予定時刻になっても会場に来ないチームは、原則として棄権とみなす。また、連絡が無い場合は、次回の大会出場はできない。
13. 試合開始の挨拶時には、登録された選手が9名以上整列しなければならない。ただし、条項を満たすには、ベンチ内に1名以上のグラウンドキーパーを確保しなければならない。満たない場合は棄権とする。
14. ファールボールは、ベンチサイドで拾い球審に届けること。（バックネット前は攻撃側）
15. 大会当時の開催判断は午前7時とする。グラウンド不良や雨天の場合は試合を中止とするが、球場が使用可能な状態の場合は試合を強行する。
16. 雨天中止の確認は、チームから積極的に行うこと。また、開催状況については草加市野球連盟ホームページまたはFacebookページからも確認ができる。
17. 各チーム、監督または主将は球場へ来たら本部席まで連絡すること（代理人も可）。その時にメンバー表を渡します。
18. 試合中の電子機器（スマートフォン、タブレット端末等）の使用禁止。

連絡先 ヤマトヤスポーツ 048-928-1135

草加市野球連盟ホームページ及びFacebookページでは、連盟の活動予定や結果などをお知らせしています。

雨天時の開催状況も7時にFacebookページでお知らせしていますので、チーム内でも有効に活用してください。

◎競技中に関する注意事項

1. 競技中のプレイヤーの禁止事項

- (1) 試合から退いてベンチに残ることを許されたプレイヤーが相手チームのプレイヤー、監督または審判員に対して、野次をとすることは許されない。(3.06)
 - (2) ユニフォームを着用した監督、コーチ、プレイヤーが試合前、試合中を問わず、相手チームのプレイヤーと親睦的態度をとること、または、観衆に話しかけることを禁ずる。(3.09)
 - (3) 両チームのプレイヤー及び補欠は、実際に競技にたずさわっているか、競技に出る準備をしているか、あるいは一塁または三塁のベースコーチに出ている場合を除いて、そのチームのベンチに入っていないなければならない。(3.17)
 - (4) 監督、コーチ、プレイヤーはどんなときでも、ベンチ、コーチボックス、その他の野球場のどの場所からも、次のことをしてはならない。(4.06)
 - a 言葉、サインを用いて、観衆を騒ぎたさせるようにあおろうとすること。
 - b どんな方法であろうとも、相手のチームのプレイヤー、審判員または観衆に対して悪口や暴言をまくこと。
 - c ボールインプレーのときに「タイム」と叫ぶか、他の言葉または動作で明らかに投手にボークを行わせようと企てること。
 - d どんな形であろうとも、審判員に故意に接触すること。(審判員の身体に触れることはもちろん、審判員に対しての話しかけや、なれなれしい態度をとること)
 - (5) 野手は、打者の目のつくところに位置して、スポーツ精神に反する意図で故意に打者を惑わしてはならない。

※ペナルティー 審判員は反則者を試合から除き、競技場から退かせる。
なお、投手がボークをしても無効とする。
 - (6) 次打者席では、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。投手も必ず次打者席に入ること。(5.10k【注1】)
2. ベンチ内での携帯マイクの使用を禁ずる。メガホン是一个に限る。
 3. 守備が終わり、最後のボール保持者は、マウンドにボールを置いてベンチに戻ることに。
 4. 試合中もめごとが生じたときは、その試合の担当審判員が責任をもって処理するが、審判員が裁定に苦しむとき、あるいは、カウント、ルールの間違ひについては、控え審判員（実行委員）がその抗議の解決にあたることことができる。よってその裁定は最終的なものとする。

以上が大会開催に関する大綱である。よって各チームはミーティングを開き、全選手に周知徹底してください。

◎競技者のマナーについて

マナーアップとフェアプレイの両面から、次のような行為を禁止する。

1. 捕手か投球を受けたときに意図的にボールをストライクに見せようとミットを動かす行為。
2. 捕手が自分で”ボール”・”ストライク”を判定するかのように、球審がコールする前にすぐミットを動かして返球態勢に入る行為。
3. 球審の”ボール”の宣告にあたかも抗議するように、しばらくミットをその場に置いておく行為。
4. 打者がヒジ当てを利用してのヒット・パイ・ピッチ（死球）狙いの行為。
5. 打者がインコースの投球を避ける動きをしながら当たりにいく行為。
6. プレイ中みだりにベンチを出る行為。
7. 野手が走者の視界を遮る行為。(規則6.01h(2))
 - (1) 走者がタッグアップしているとき、野手が走者の前に立ち視界を遮る行為。
 - (2) 野手が走者の前に立ち、ボールを保持している投手板上の投手への視界を遮る行為。
8. その回の先頭打者は、準備投球が終わるまで次打者席で待機すること。
9. 投手が投球動作を開始したら、投手の動揺を誘うような声を発しない。

以上が競技者のマナーに関する大綱である。よって各チームはミーティングを開き、全選手に周知徹底してください。

◎大会特別規則

1. 試合時間について

7回戦1時間30分を超えて新しいイニングには入らないものとする。なお、スムーズな大会運営のため、当該試合の球審と大会本部の判断により、最終イニングの宣告が行われた場合はこの決定を最優先とし、当該チームの意見等は一切受け付けられないものとする。

2. コールドゲームについて

暗黒降雨コールドゲームは5回(4回1/2)とする。なお、リーグ戦における得点差におけるコールドゲームは適用しない。また、トーナメント戦においては7回戦3回以降10点差、5回以降7点差で適用する。

3. 延長戦について

延長戦は行わない。試合が大会規定回数(7回)を完了して同点の場合には、次のとおりとする。
<トーナメント戦方式の大会の場合>特別延長戦を行う。

4. 特別延長戦(タイブレーク)について

継続打順で、前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁走者とする。すなわち、0アウト一塁、二塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。なお、勝敗が決しない場合は、さらに継続打順でこれを繰り返すこととする。2イニングで終了し勝敗が決しない場合は、抽選とする。

5. 特別継続試合について

暗黒降雨等よりタイゲームのまま中断になった場合、更に降雨によりノーゲームになる回数
のとき特別継続試合として行う。

6. 指名打者制度について(任意適用)

先発投手または救援投手が打つ番のときに他の人が代わって打つても、その投球を継続できることを条件にこれらの投手に代わって打つ打者を指名することが許される。投手に代わって打つ指名打者は、試合開始前に選ばれ、打順表に記載されなければならない。指名打者に代えて代打者を使っても良いが、指名打者に代わった打者は、以降指名打者となる。退いた指名打者は、再び試合に出場することはできない。指名打者制度は、攻撃9人制 または 攻撃10人制での適用を認める。攻撃10人制とは攻撃に参加する投手の他に指名打者を置くことができるが、この場合は試合終了時まで10人での攻撃を継続する必要がある。また指名打者と投手、捕手、野手との変更(入替)を認める。

7. バットについて

一本の木材で作った木製バットのほか、金属製バットは全軟連公認のものに限る。

8. 捕手の防具について

捕手が守備につくときは安全のため、マスク、レガース、プロテクター、捕手用ヘルメット、ファウルカップを着用すること。

9. ヘルメットについて

打者、次打者、走者及びベースコーチは、必ずヘルメットを着用すること。
(製品安全協会の認定基準によるもの)

10. 抗議権について

監督、主将、当該プレイヤーのうちいずれか1名とする。

11. かくし球について

走者のいるとき、球を持たない投手がプレートのすぐそばでサインを見るような動作をした場合は、球を持たないでプレートについたとみなし、かくし球は無効でボークとなる。

12. コーティシーランナーについて

試合のスピード化をはかるため、試合に出ている9人の中から代走(打順の前任の者、ただし投手を除く)を認める。

13. 試合中断中のアピールについて

激しい降雨により中断され、中止となる場合に限りアピールすることができる。

14. 試合中の禁止事項について

- (1)バットの素振り用パイプ及びリングの使用を禁止する。
- (2)投手が腕の手首にリストバンド(サポーターなど)を使用することを禁止する。
- (3)足を高く上げてのスライディングの禁止。現実これが妨害になったと審判員が認めるときは、守備妨害で走者アウトとする。
- (4)空タッチを禁じる。走者が進塁のとき野手が空タッチをして、妨害になったと審判員が認めるときは、オブストラクション(走塁妨害)を適用する。
- (5)プレイヤーが塁上に腰を下ろすことを禁じる。
- (6)守備側からのタイムで試合が停止されたとき、その間投手は捕手を相手に投球練習をしてはならない。

- (7) もめごとなどの際、審判員や相手プレイヤーに手をかけることを厳禁とする。万一このような事態が起きたときは退場を命じる。
- (8) 相手チームや審判員に対する聞き苦しい野次は厳禁する。また、スタンドでの自チーム側の応援の野次もチームの責任とする。

15. 試合のスピード化に関する事項

- (1) 投手は初回（救援を含む）に限り、一分を限度として8球以内の準備投球が許される。次回からは4球以内とする。
 - (2) 攻守交代は駆け足で行うこと。
 - (3) 投手と捕手について
 - ① 投手が捕手のサインを見るときは、必ずプレートについて見る。
 - ② 投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受けた後、走者がいない場合には12秒以内、走者がいる場合は20秒以内に投球しなければならない。違反した場合、走者が塁にいない場合はただちにボールを宣告し、走者がいる場合は警告を発することとし、同一投手が2度繰り返したら、3度目からはその都度ボールを宣告する。
 - ③ 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球すること。
 - ④ 捕手から返球を受けた投手は、速やかにプレートを踏んで投球姿勢をとること。
 - ⑤ あまりインターバルが長く、無用な牽制が度を過ぎるとペナルティーを課すことがある。
 - (4) 打者について
 - ① 打者は、速やかに打者席に入って打撃姿勢をとること。
 - ② 次打者は、次打者席へ入ったら必ず低い姿勢で待つこと。投手も必ず実行すること。
 - ③ 打者がみだりに打者席をはずした場合、球審はタイムをかけずに、投球に対して、正規に「ボール」、「ストライク」を宣告する。
 - ア 投球が終了（見送るか空振りする）したら、打者席をはずすことは差し支えないが、投球の終了毎に、いちいちはずすことは許されない。
 - イ 打者は、打者席内でベンチのサインを見ること。（打者が正規に打撃姿勢をとらなければ、投手は、打者に投球しない。）
 - (5) 内野手間の転送球は、1回表・裏とし速やかに投手に返球すること。なお、試合が遅れているか、日没まで短時間しかない場合は、転送球を止めさせることがある。
 - (6) タイムについて
 - ① 監督・主将はタイムを要求しないまま、みだりにベンチを出てはならない。
 - ② タイムを制限する。
 - ア 試合中スパイクの紐を意図的に結び直すためのタイムは認めない。
 - イ タイムは1分間を限度とする。ただし、審判員が認めた場合はこの限りではない。
 - ウ タイムは、プレイヤーの要求したときでなく、審判員が認めたときである。打者がタイムを要求するときは、投手が投球の構えに入る前でなければならない。また、打者は、投手が投球動作に入ったら打者席を出てはならない。
 - (7) 本塁打の走者を迎える場合は、ベンチから出てはならない。
16. 監督またはコーチが、同一イニングに同一投手のところに行く回数を1回に制限する。
 17. 交代して一度退いた選手は、ウォーミングアップの相手、ベースコーチも許される。
 18. 次の試合の先発バッテリーは開始10分前にブルペン使用を認める。ただし、試合中の選手の妨げになってはいけない。

◎特別規約

① 学生チーム

専修学校生、各種学校生および大学生、高校生は同一学校または個人で一般チームに登録することができる。但し、学校単位で編成する場合は、学校名は使用せずクラブ名とする。

② 控え選手の打順表への記入について

打順表提出時に、球場にいない者は記入できない。ただし、到着次第、監督は球審にその旨を申し出て、本部の確認を得た後、追加記入を要請することができる。追加が認められた選手は、それ以後、試合に出場できる。